

学校だより ~10月特別号~

URL <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/daigonishi-s/>

E-Mail daigonishi-s@edu.city.kyoto.jp

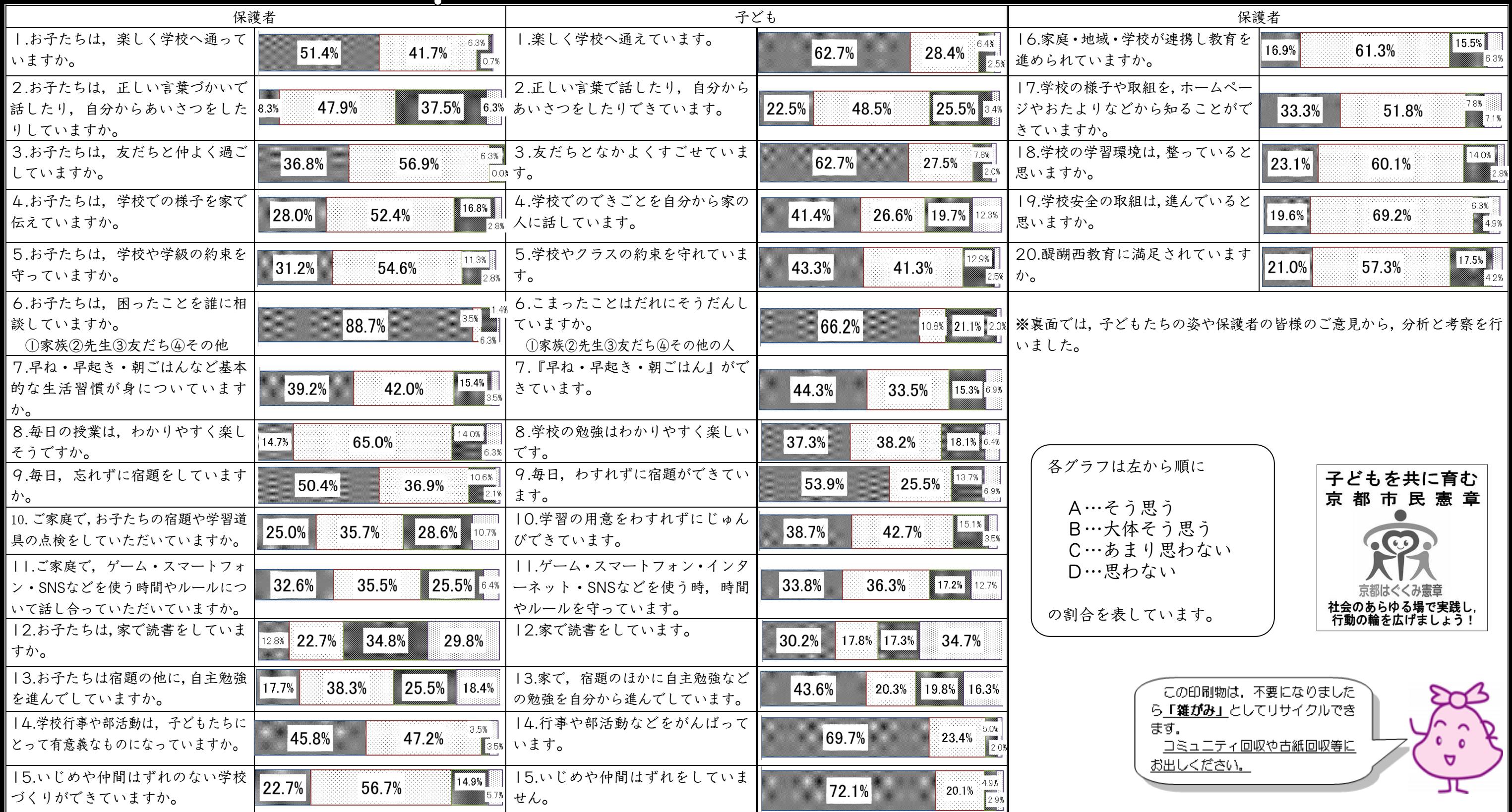
〒601-1378 京都市伏見区醍醐川久保町1 Tel571-0221 fax571-4629

平成30年10月12日
京都市立醍醐西小学校
校長 森川 浩孝



保護者の皆様にはお忙しい中、7月に実施いたしました「学校評価」のアンケートにご協力いただきありがとうございました。また、児童には日頃の学習や学校生活の様子についてふり返り、自己評価を実施いたしました。保護者の皆様からいただきました学校評価と児童の自己評価を通して、学校の日頃の取組を見直すきっかけにするとともに、保護者・地域の皆様と一緒に、よりよい教育のあり方を探っていきたいと考えています。今回は、144通の回答をいただき、結果の分析と考察を行いました。

平成30年度 前期 学校評価について



前期学校評価（7月）の分析・考察

【A…そう思う B…大体そう思う C…あまり思わない D…思わない】

【『楽しい学校』を目指して】

楽しく学校に通えているかどうかを問う設問1では、A/B（そう思う／大体そう思う）の割合が、子どもが全体の91%，保護者が全体の93%となっています。このことから多くの子どもたちが、楽しく通うことができていると言えます。しかしながら、保護者の7%，子たちが楽しく通えていないと感じ、子どもたちの9%が楽しくないと答えています。この点を見過ごしてはいけないと私たちは考えています。やはり、子どもたちみんなが楽しく通える学校を目指していかなくてはならないと思います。

子どもたちが「楽しい」と感じられる学校とはどんな学校なのでしょうか。様々な要素があるとは思いますが、その中に大きい2つの要素があると考えています。1つめは授業（学習）が楽しく分かりやすいということ。2つめは自分の居場所があり、信頼できる仲間がいること。この2つが充実することで、より「楽しい」学校になっていくと思います。

【「楽しい・分かる・できる」授業（学習）を目指して】

設問8「学校の勉強は分かりやすく楽しいですか」に注目すると、A/B（そう思う／大体そう思う）の割合が、学校全体で75%に留まっていることが分かります。25%の児童、つまり4人に1人が、学習が分かりにくく楽しくないと感じている状況です。学年が上がるにつれて、学習内容は難しくなります。算数科の学習を筆頭に前の学年で学習したことを活用して覚えることも増えます。そのためには「楽しい」「分かる」に加えて「できる」という実感も必要なのです。学校では、「ことばの広場」や「かずの広場」といった帯時間、時には放課後を活用して基礎基本の学習を繰り返し行い、定着を図っています。今後もこれらの取組を続け、支援、配慮も充実させていきたいと思います。

設問9「毎日忘れず宿題をしていますか」では、A/B（そう思う／大体そう思う）と答えた子どもたちの割合が約80%でした。しかし、約20%の子ども達が、「あまりできていない」「できていない」と答えています。学習の定着図るために、繰り返し学習することが必要です。今回のこのアンケートでも「宿題が少ない」という貴重なご意見も頂いています。「楽しい・分かる・できる」を子どもたちが実感できるように家庭学習（宿題）の習慣を身につけさせたいと考えています。そのためにはご家庭と学校の連携が大切です。以下のようなことにご配慮いただければ幸いです。

◎学習する時間を決め、出来る限り、毎日同じ時間に行うようにします。

◎学習をするときは、テレビなどを消して、集中して行うようにします。

◎子ども達のかんぱりを認め、褒め、励ましてください。

◎学習する場所は整理整頓し、環境を整えてください。

*宿題に関してご相談等ありましたら、一緒に考えていきますので、いつでもご連絡ください。

4. 自由記述欄に頂いたご意見・ご質問

※同様のご意見はまとめたり要約したりして掲載させていただいている。

【言葉遣いについて】

- ・子ども同士の言葉使いが気になります。冗談であっても言ってはいけないような人を傷つける言葉を耳にします。その都度学校でもご指導いただきたいです。
- ・〇〇ちゃん、〇〇くんとは呼ばず、〇〇さんと呼ぶのはなぜでしょうか。

【その他】

- ・下校時、外環の横断歩道を子たちだけで渡って帰ってくるのが心配です。
- ・友だちとのトラブルが時折ある様ですが、その度に担任の先生はきちんと対処して下さっていて嬉しく思います。今後も相談させて頂くことがあると思いますが、その際はよろしくお願ひ致します。
- ・宿題が少ない。
- ・学校に電話をしたときに挨拶をしない先生がいました。
- ・夏休み前の三者懇談ですが、子どもの前で聞きにくい事（友人関係など）もあるので、二者でもよいかなども思います。
- ・むずかしい年齢に入って来て、第1子なのもあり、親の私も手探りな所があります。いつも相談させていただくばかりで申し訳ありませんが、今後ともよろしくお願ひいたします。

【子どもたちのよりよい仲間づくりに向けて】

設問3の「友だちとなかよくすごせています。」では、90%の子どもたちがA/B（そう思う／大体そう思う）と答え、10%の子どもたちがC/D（あまり思わない／思わない）と答えています。これは、設問1と非常に似通った回答と言えます。子どもたちが友だちとよりよい関係を築いていく力を育てるこども学校教育の大切な役割だと思います。子どもたちがその力をつけるためには、授業をはじめ様々な活動の中で、子どもたちどうしが協力し合ったり、一緒に課題解決をしたりしていく経験がなくてはなりません。学校行事やたてわり活動をより精選・充実していきたいと思います。

◎いじめ根絶に向けて

子どもたち一人一人に居場所があり、安心感をもてるようになるために、いじめは絶対にあってはいけません。子どもたちのよりよい仲間づくりに向けて、「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を日頃の学校生活の中で子ども達一人一人に徹底して指導していきます。

設問15「いじめや仲間はずれをしていません」について、児童は、A（そう思う）の割合が70%強ですが、自信を持って「絶対にいじめや仲間外れをしない」「全くしていない」と答え切れない実態があると思われます。

日頃から児童の見守りや信頼関係の構築を図りながら、児童が示すわずかなサインも見逃さないような体制作り（定期的なアンケート・教育相談等）や児童が抵抗なくいじめに関して相談できる体制作りが重要であると考えています。

しかしながら、いじめの実態については学校だけでは把握しきれない面があることは否めません。子どもたちへの設問6「こまったことはだれにそุดらんしますか。」では66%が家族に相談していると回答しています。このことからも、保護者の方のお力が必要だということがわかります。一方で、次のような視点も大切ではないかと考えています。保護者の方への設問6「お子たちは、困ったことを誰に相談していますか。」で、A（家族）と回答している割合が88%で、これは子どもたちの回答と22%の開きがあるということです。つまり、子どもたちはもしかすると本当に相談したいことをしていない、あるいは、できないのかもしれないということです。そのことを私たち大人は念頭においておかなくてはいけないということだと思います。文部科学省の資料によると、いじめ発見のきっかけの55%はアンケートからだという結果が出ています。常に大人がアンテナを張り、学校と家庭が連携していきたいと思います。

◎ゲーム・スマートフォン・インターネット・SNSの使い方について

現代のいじめに多く関わるものとして、スマートフォンや携帯電話を使ったインターネットやSNSの存在を忘れてはいけません。中学校にいたっては、トラブルの原因の95%がSNSやメールだというデータも出ています。設問11で使う時間やルールを守っていると回答しているのは子どもたちの70%にとどまっています。保護者の方の設問11の回答も使う時間やルールについて話し合っているのは68%で、子どもたちの回答と大きな差がないことが分かります（B/大体そう思う、を含む）。科学技術が進歩した現代の社会の中で、スマートフォン等を使わないということはなかなか難しいと思います。大切なのは、それを使う人の思いやりやマナー、モラルだと思います。学校では情報モラルの授業をはじめ、様々な場面で指導を行っていきます。ぜひ、ご家庭でも、スマートフォンやインターネット、ゲーム、SNS等の使い方等で話し合ったり、ルールを決めていただきたいと思います。

いただいたご意見・ご質問は、全教職員で共有・検討し、今後の取組に活かしてまいります。保護者の皆様には、学校だよりなどで取組としてご紹介することで、お答えしていきたいと考えています。

今後ともご理解、ご協力をよろしくお願いします。